

現地を訪問して想うこと

田中 真二 (1991・文)

今回ツアーに参加して、復興が進んでいるところもあれば、進んでいないところもまだまだ多いと感じました。まず遠野市のボランティアセンターを訪問させていただき、ボランティアを受け入れた遠野の態勢を見習うべきだと思いました。ひと昔にくらべるとボランティアに来る人数は少なくなっているとのことですが、真の復興の日が来るまで継続してほしいと思います。

釜石市ではガイドさんが教育の大切さを説かれました。「釜石の奇跡」偶然ではなく日頃の防災教育と先生方の的確な指示の結果であると感じました。私は岐阜県の高等学校で教員をしています。「命を守る」ための教育と訓練を生徒とともに考えていきます。

宿泊した大槌町や2日目に訪問した陸前高田市では、自然の力の前に人間が作り上げてきたものがいかに無力だったかを思い知りました。そして奇跡の一本松や倒壊した校舎を車窓から見るのも、「いつ地震がおこるのかわからないから」とおっしゃっていました。日本で地震が来ない、一度おこったら二度とこないところなどありません。その中で私たちは一人でも多く助かるように、防災意識を高めていかなければなりません。行動に移さなければなりません。

今回のツアーで、震災に遭った地域の実情を正しく伝えることが参加者にとって一番大事なことです。職場の同僚に、生徒に、家族に是非東北に足を運んで様子確かめたいと思ってもらえるように話していきます。

ありがとうございました。